



学校だより 3月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年3月1日

共に育つ 共に育てる

校長 山中 真紀子

2月に行われた授業参観・懇談会・学校説明会には多くの方に参加いただきありがとうございました。今年度も残り1か月となりました。校庭からは長縄をする子どもたちの声が聞こえてきます。体育の時間にも取り組み、クラスの記録を伸ばしてきました。その取組の中で、相手を思いやり、どうしたらうまく行くのか話し合ったり、知恵を働かせたりしています。「長縄がたくさん跳べるようになる」だけでない大切なことを学ぶ時間となっています。

先日、個別支援級の「支援員さんありがとうの会」に参加すると、子どもたちが力を合わせ会を進行し、感謝の気持ちを伝えていました。「たくさんの準備をしたんだろうな。落ち着いて、落ち着いて、大丈夫だよ。」と思わず応援してしまいました。一緒にゲームに参加させてもらい、子どもたちに「うまくできていたよ。」と声をかけると、にっこりと返してくれました。成功体験の積み重ねが自信となり、子どもたち一人一人が成長していることを感じました。

たてわりふれあいタイムの「6年生ありがとう集会」では、各学年からのお祝いメッセージや歌が工夫され発表されました。「かっこいい」「あこがれ」「優しい」「ありがとう」の言葉がどの学年からも出てきて、6年生がこの学校になくてはならない存在であることを再確認する時間となりました。また、会をリードする5年生がたのもしく見え、6年生となって活躍する姿が目に見え、6年生の代表児童が「小学校生活で、他学年の人や同学年の人と互いに協力し、助け合うことの大切さを学びました。中学に行っても、協力し助け合うことを大切に、部活や文化祭、体育祭などの行事にも積極的に取り組むことを頑張りたいと思っています。他学年の人や同学年の人と協力し、助け合いができるひよみなにしていってください。」と述べました。たてわり活動の中で、協力し助け合う経験を積み重ねたからこそその言葉なのだと思います。学校では、コロナ禍においても、たてわり活動をどう継続していこうか考えてきました。「できる」というタイミングを見て、いち早く再開させたのもたてわり活動でした。本校が大切にしているものが子どもたちにもしっかり伝わっていることがとても嬉しく感じ、これからもたてわり活動を活用し、子どもたちを育てていきたいと思いました。



この時期、どの子どもも、次の学年へ向けての気持ちづくりをしています。がんばろうという気持ちや不安な気持ちを、学校と家庭で役割を持ち、受け止め、共有していけたらと思っています。学校と家庭が手を取り合う姿を子どもたちに見せることこそが「共育」なのだと思います。引き続きご協力をお願いいたします。

保護者の皆様、地域の皆様には、いつも学校を見守り支えていただきありがとうございました。令和5年度も引き続き、体験的な活動や協働的に学ぶ教育活動を充実させてまいります。「学校だからこそできるつながりを大切に」「保護者、地域の皆様とのつながりを大切に」取り組んでまいります。来年度もよろしくご協力いたします。

